

# 令和5年度 科博オンライン・セミナー ～サイエンスコミュニケーション初級編～ 講師紹介

**渡辺 政隆** 日本サイエンスコミュニケーション協会 会長

サイエンスライター。同志社大学特別客員教授。  
専門はサイエンスコミュニケーション、科学教育、科学史、進化生物学。

## 担当講義:「サイエンスコミュニケーション事始め」

サイエンスコミュニケーションとは誰がどこで何をする事なのか、サイエンスコミュニケーションの意義、目標、方法について学びます。



**丸山 宗利** 九州大学総合研究博物館 准教授

専門分野はアリと共生する昆虫の多様性解明。  
研究だけでなく、一般書の執筆や図鑑の監修、「子ども科学電話相談」などの普及啓発活動も幅広く手掛ける。  
国立科学博物館で行われた特別展「昆虫」(2018年)では監修を務めた。

## 担当講義:「児童向け出版物・展示を通じた昆虫の普及啓発」

児童は普及啓発事業において極めて重要であるとともに、非常に難しい対象者でもある。これまでにやってきた児童向けの昆虫に関する出版や展示、質問の回答の内容などを紹介し、その問題点や課題についてお話します。



**本田 隆行** 科学コミュニケーター

国内でも稀有なプロの科学コミュニケーター。  
「科学とあなたを繋ぐ人」として、科学に関する展示企画や実演の実施・監修、大学講師や対話の場のファシリテーター、行政委員、執筆業、TV・ラジオ・新聞での科学解説など、なんでもこなす。

## 担当講義:「サイエンスコミュニケーションを、仕事にしてみたら」

サイエンスコミュニケーションとは何かを問われると、「科学と社会をコミュニケーションでつなぐ営み」と簡略化して答えてしまいがちだが、では果たして具体的にはどんな実践事例があるのだろうか。

生業としてサイエンスコミュニケーターを行っている講師が、実際に行ってきたさまざまな実践事例を、狙いや背景などを踏まえて紹介する。

